

# ABIC 国際社会貢献センター

## Information Letter

No. 62 2021年12月

|                   |                                                      |    |
|-------------------|------------------------------------------------------|----|
| <b>自治体・中小企業支援</b> | ボウリング愛が海を渡る……………                                     | 2  |
|                   | 高知県のかまぼこ店への支援……………                                   | 3  |
| <b>教 育</b>        | 商社活動とSDGsの親和性<br>東洋英和女学院大学大学院「ビジネス—企業と国際協力」での講義…………… | 4  |
|                   | 教育的な土壌を提供するABICの活動……………                              | 6  |
|                   | 高校生国際交流の集い2021……………                                  | 7  |
| <b>留学生支援</b>      | 日本語広場講師の楽しみ……………                                     | 8  |
|                   | 日本伝統文化「華道」の魅力……………                                   | 9  |
|                   | 東京国際交流館での活動……………                                     | 10 |
|                   | 兵庫国際交流会館での活動……………                                    | 11 |
| <b>新刊紹介</b>       | 『いろぬすびと (The Color Thief)』……………                      | 5  |
|                   | 会員の種類……………                                           | 12 |
|                   | 法人・個人正会員／賛助会員一覧、活動会員数……………                           | 12 |
|                   | 賛助会員入会のお祝い……………                                      | 12 |

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)  
Action for a Better International Community

[www.abic.or.jp](http://www.abic.or.jp)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-1  
霞が関コモンゲート西館20階  
Tel : 03-6268-8604 Fax : 03-6268-8652  
e-mail : mail@abic.or.jp

(関西デスク) 〒541-0053 大阪市中央区本町4-4-24  
住友生命本町第2ビル9階  
Tel & Fax : 06-6226-7955  
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

## 自治体・中小企業支援

## ボウリング愛が海を渡る

みうら じゅんいち  
三浦 純一 (元 NTT)

2020年12月から、ABICが支援している鳥取県産業振興機構が取り組んでいる中小企業支援事業の一環でABICから紹介された、鳥取県米子市にある化粧品メーカーのルウ研究所の新商品であるボウリングボール用クリーナーの全米ボウリング協会（USBC）公認の取得<sup>（注）</sup>をご支援させていただいている。2021年3月末までにということだったが、無事に3月下旬に公認を取得することができた。新年度も引き続き、2021年6月から2022年2月末までさらなる新商品（クリーナー）のUSBC公認を取得すること、そして米国、シンガポール等での直販体制の構築支援という新しいミッションをいただき奮闘の日々が続いている。

ルウ研究所は創業以来、地球環境に配慮した未利用資源の活用を研究し、魚由来のフィッシュコラーゲンを日本で初めて抽出、実用化するに至った。ボウリングを愛する石塚社長が信頼できる成分のクリーナーがないとのこと、自社開発をしたのがこのクリーナーである。クリーナーの主成分は、天然由来ヤシ油や天然由来キャロットリーフエキスであり、低分子タイプの自然に優しいクリーナーとなっている。

日本ではボウリングブームが1970年ごろに起こった。特に中山律子プロ等の人気もあり、ボウリング場は3,700カ所ほどとなった。その後は経済成長とともにゴルフブームが起き、ボウリング人気は現在に至るまで緩やかな下降傾向が続いている。最近のデータによると日本のボウリング場は380カ所程度で、2019年の市場規模でも600億円程度となっており、何かインパクトが欲しいところでもある。

一方、米国ではボウリング場が12,000カ所ほどで、ホテル、カジノ、レストラン、バーなどが併設されているところが多い。私はバンコクで何度かボウリングを楽しんだことがあるが、照明設備などが凝ったボウリング場もあり、お酒を飲みながらワイワイ楽しむス



筆者

タイルが若者に受けている。シンガポールのボウリング場も同じようなスタイルで、若者のおしゃれなプレイスポットとなっている。

日本でボウリングが盛んだったころ、ロケット博士と呼ばれていた糸川英夫さんは、著書の中で「パチンコが日本の娯楽として盛んなのは、パチンコ台がほとんど場所を取らないからである。それに引き換えボウリングはボールを転がすからより広い場所を必要としている。ましてやゴルフはボールを飛ばしているわけだから、かなり広い場所を必要とすることになる。狭い日本ではボウリングやゴルフは根付かないと私は考えている」といったようなことを書かれていたように記憶している。現状を見る限り、少なからず糸川さんの考えは当たっているといわざるを得ないようである。

ここで私からの提案であるが、老若男女が楽しめるボウリングをもっと身近なものにしてみたいのではないかな。ホームセンターの中にボウリングレーンを併設したり、映画館や駐車場、家具店の展示場などにボウリングレーンを併設してみても面白いのではないかな。親しい友人たちとビールを片手に楽しく語らい、そしてボウリングをしながら大いに笑い合うという楽しみをもう一度思い出してみたいものである。

鳥取で芽生えたボウリング愛が海を渡り、天然由来のボールクリーナーが米国人を驚かせたり、日本でのボウリングの再興を果たすことができれば、どんなにか愉快なことだろうか。私もいつかは「マイボール」を持てたいものである。

（注）USBCから公認を得ると、公式競技会での使用が可能となる。

**化粧品メーカーが自社工場で開発**



低分子化させた天然由来成分が  
油除去を実現



USBC認定のボールクリーナー  
全世界の公式戦で使えます

USBC認定のボールクリーナー

## 自治体・中小企業支援

## 高知県のかまぼこ店への支援

もり 森 岳三 (元 住友商事)

新型コロナウイルス感染拡大（以下、新型コロナ）の第2波が来つつあった2020年7月ごろにABICから連絡があり、室戸市在のかまぼこ工場の輸出業務支援をしてほしいかという相談であった。

きっかけは、高知県移住促進・人材確保センターが県への移住を推進するために、県の企業への技術、経営、販売等について専門家が支援することによって被支援企業の規模拡大を図り、よって県の人口増加を図ろうとしている中で、山本かまぼこ店が同人材確保センターに支援者紹介を要請し、センターがABICに人材紹介を依頼。ABICから私に協力できるかとの打診があったものである。

私は住友商事食品部門の出身であり、その後全国版食品問屋の連合会事務局を務めていたことから、1) まずは知人の多い国内販売から始める、2) 新型コロナの第2波にある中で、訪問販売のために頻繁に外出することは難しく、既知の国内食品問屋宛てに電話やメールでのリモート商談ということでもよいのか、という2点について確認すべく、Zoom面談を行った。

新進気鋭の社長は高知県版ではあるが早くからHACCP<sup>(注1)</sup>の取得やハラール認証<sup>(注2)</sup>を取得して、有名百貨店のハラールコーナーへの出展も果たしていたことも聞き、この人なら支援のしがいがありそうだと感じ、有力問屋にサンプルを持ち込んで試食をしてもらった。「これはおいしい商品だな〜」という食の専門家の言葉を聞いて、営業支援をお引き受けすることを決意した。

その後関東圏の有力問屋にサンプルを持ち込んだが、なかなか成果が出ない。理由は、新型コロナの中で、問屋自

体が実需先との商談ができない状態であると同時に、実需先としても来客減で新規商品の売り込みができる状態ではないというのが実態であったが、カタログ販売で協力してくれた先もあった。

一方で2030年の農林水産物・食品の輸出5兆円を



山本かまぼこ店の山本専務と（左が筆者）  
出典：『冷蔵タイムズ』水産タイムズ社

目標にしている日本政府の輸出促進活動は年々活発化しているように感じるが、最近は新型コロナにより出展型商談会ができなくなり、オンライン商談会が活発化している。JETRO主催により、輸出を希望している日本企業と、日本食品の輸入を希望する海外バイヤーを登録し、オンライン商談の調整を行うものもあり、特に日本の外食市場が縮小している中で海外向けへの支援を中心に据え、ホームページの英語の作成や、オンライン商談のためにパワーポイント英文版への翻訳、オンライン相談会のアレンジに注力している。

最初の海外バイヤーとのオンライン商談はJETROの費用で通訳をつけてくれるが、その後は海外バイヤーと直接交渉となる。従ってある程度業界用語や慣習を理解して英語での交渉ができる人の支援を受けるか、それとも日本側の輸出業者に丸投げするかしかないということとなる。幸いに社長夫婦の大学生のご長男が事業承継のつもりで英語の勉強を頑張ってくれているようなので楽しみである。

高知では「いごっそー」と呼ばれる、物事にいずすな坂本龍馬のような人と呼ぶ言葉がある。同社の社長はまさにそれ。不要な添加物・調整剤は一切使わず、可能な限り自然な原料と手作りにこだわる「いごっそー」である。その社長の「良い商品へのこだわり」によって必ず国内外で成果を得ることができると確信している。

製造・営業・経営・経理・新工場建設等を社長夫婦が阿修羅のごとく頑張っておられる姿には頭が下がる思いであり、少しでもお役に立てる部分があればという思いで今後も支援をさせていただく所存である。頑張れ、いごっそー！

(注1) HACCPとは衛生管理の手法であり、2020年6月から食品を扱う全事業者に義務付けられた。

(注2) ハラールとはイスラムの教えにより食べても構わないものを指す。



シーフードショーで人気  
『冷蔵タイムズ』水産タイムズ社  
2020年10月13日



## 教育

## 商社活動とSDGsの親和性

## 東洋英和女学院大学大学院「ビジネス—企業と国際協力」での講義

国際社会貢献センター 監事 やすだ あきこ  
日本貿易会 政策業務第三グループ兼総務グループ次長 保田 明子

日本貿易会に勤務する中で、さまざまな商社の創業者と発展の歴史を調査し、商社活動の本質について研究活動を行ってきた。この経験を基にABICの活動に参加したいと考え、2020年より会員登録させていただいた。ここでは2021年度後期に東洋英和女学院大学大学院で講義した「商社活動とSDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）の親和性」について紹介したい。

## SDGsとESGの違い

今や至るところで目にするようになったSDGsは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標であり、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っている<sup>（注）</sup>。発展途上国だけでなく、先進国も取り組むユニバーサルなものとして、2019年ごろより日本でも積極的な取り組みが見られるようになった。

SDGsが目標であるのに対し、その目標を達成するために企業が取り組むべき手段がESG（Environment・Society・Governance：環境・社会・ガバナンス）である。SDGsが幅広い人々を対象とするのに対し、ESGは投資対象の文脈で使用されることが多い。企業はESGに配

慮した経営を行うことで、投資家に支持されやすくなり、投資家はESGの視点を持って経営を行う企業に投資することで間接的にSDGsの実現に貢献することができる。



## ESG経営が加速する商社～脱炭素に向けた取り組み

最近、商社が保有する石炭権益を売却するなど、脱炭素に向けた動きが加速している。CO<sub>2</sub>排出量が多い石炭に対する国際的な問題意識が高まり、日本政府が2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」目標を打ち出したことで、銀行や投資家から脱炭素に消極的な企業だとみなされると企業価値が下がりがねず、商社もESG経営を強化している。

石炭に代わって期待が高まっているのが燃料時にCO<sub>2</sub>を排出しない水素やアンモニアである。経済産業省が2021年7月に出したエネルギー基本計画原案では、2030年度の電源構成に水素・アンモニアが初めて盛り込まれた。企業の持続的な発展のためには収益の確保が前提となるが、商社が再生可能エネルギーに加え、水素・アンモニアなどの脱炭素に関連する事業を石炭事業に代わる収益源に育てようと新たな挑戦に取り組む動きが目立つ。こうした商社のESG経営が未来のカたちであるSDGsの実現につながっていくことになる。

## 商社活動とSDGsの親和性

商社の歴史は、困難に直面しても次世代を見すえたイノベーションを創出し、新たな時代の到来をリードしてきた歴史である。これまで商社活動の本質は近江商人の「三方よし」（売り手よし、買い手よし、世間よし）で表現されることが多かったが、より正確に表現するならば「三方よし」に未来志向を加えた「四方よし」が商社の本質ということになる。これこそまさにSDGsの実現に向けた取り組み



学生のSDGsに対する関心は高い  
（東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科での講義の様子、右上が筆者）

（注）2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された。

## 教育

みであり、商社活動とSDGsの親和性は極めて高い。一般的にSDGsに対する関心は高まったが、まだまだ理解されていない商社活動の本質を語り、一人でも多くの方に商社を理解していただくことが私自身のSDGsの実現に向けた取り組みである。

### 学生のSDGsに対する関心は高い、しかし…

こうした思いを込めて、商社とSDGsの親和性についてさまざまな大学で話をするが、学生たちのSDGsに対する関心が非常に高いのには驚く。例えば、今回の東洋英和女学院大学大学院の受講者の研究テーマは、ジェンダー、気候変動、企業の社会的責任といった、いずれもSDGsにつながるものであった。しかし、残念ながらそれをより大きな視点でとらえ、多くのサプライチェーンの源流に商社の存在があることを意識している学生にはなかなか遭遇しないのが実態である。今回の受講者からも「商社が単なる貿

易会社ではないことを知って目からうろこが落ちた、世の中を見る目が変わった」という感想が寄せられた。まだまだ商社の本質を語る旅は続く。

### おわりに～SDGsの観点からみたABIC

ABICは、民間レベルでの支援・交流活動によって国内外に社会貢献を行うことを目的に2000年に創立されたが、SDGsの「目標8 働きがいも経済成長も」につながる組織



である。SDGsよりも15年以上前にスタートしており、ABICは、「商社の時代を先取りする力」を実証しているといえる。この組織に関わる全ての方に、今後もよりいっそう胸を張って取り組んでいただきたい。

## 新刊紹介 『いろぬすびと (The Color Thief)』

著者：伊東 良平 (ABIC会員、元伊藤忠商事)  
 出版社：幻冬舎  
 単行本定価：1,650円 (税込) 2021年5月13日発売  
 電子書籍定価：1,320円 (税込) Amazon Kindle、  
 Apple Books、紀伊國屋 Kinoppy など  
 言語：日本語・英語 (バイリンガル)  
 単行本：B5 上製本 32ページ

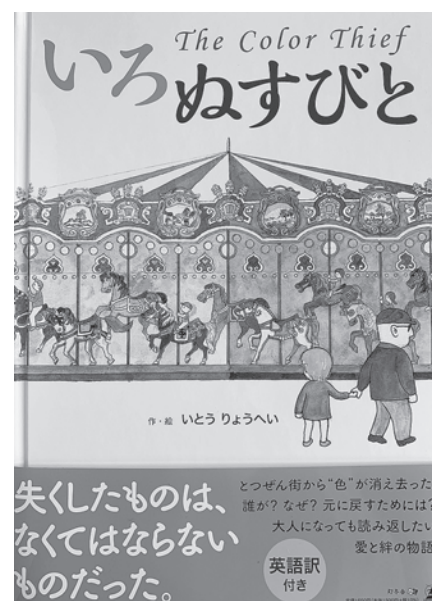
失くしたものは  
 なくてはならないものだった。

とつぜん街から“色”が消え去った。  
 誰が？ なぜ？ 元に戻すためには？  
 大人になっても読み返したい愛と絆の物語。

盲目の少女ソフィーはおじいちゃんと二人暮らし。  
 夢はいつか青い海を見ること。  
 そんなある日、世界はあちこちで“モノクロ”に。  
 大混乱の中、事件は思わぬ方向へ進んでいき……。

孫と一緒に読めるお話が書けたらなと思っていたものが、自身最初の絵本になりました。子供には年を追って繰り返し読んでもらえたら、その時々で理解したり感じる違うかもしれません。子供に読み聞かせをするお父さん・お母さんも含めた大人も読者として想定した絵本になっています。

上記書籍、e-bookはAmazon、楽天などでもご購入いただけます。



## 教育

## 教育的な土壌を提供するABICの活動

アーク・スリー・インターナショナル 留学事業部 特別任用顧問  
ヒラタ・アンド・アソシエイツ 代表取締役社長

ひらた かずよし  
平田 和義

2011年5月にABIC活動会員千田昌明氏より連絡があり、ABICが受託する大学講義の代行を急きょ依頼された。大阪府にある追手門学院大学で開講されるオムニバス方式講義の一つで、「TPPを中心とした北米経済を英語で教える」という内容である。私は大学で教鞭を執ることは多少あり、以前はカナダ・バンクーバーに住んでいたため英語は得意としていたが、「英語講義」は初めてであった。ましてや通関士資格を保持されている千田氏のように経済や貿易が専門ではなかった。しかし、せっかくの貴重な機会、等身大で自身のカナダ生活体験を交えながら全力で講義に当たった。例えばカナダの銀行で2000年当時、年利5%のボンド（国債や州債）を運用し、米ドルとカナダドルの為替差益に着目していたこと、環境系（今でいうESG）投資信託を通じて最新の世界経済の要素を学び得たという、リアリティを前面に出した講義編成は一定の評価を得たと考える。私の心の中でくすぶっていた教育活動への情熱も、このチャレンジによって火がついたように思う。

以後ABICからさまざまな教鞭機会を定期的に頂くことになる。2015年に行った兵庫県立西脇高等学校「異文化理解講演」では1学年生徒（400人ほどだったと思う）を体育館に集め、スカイプを使い、大スクリーンで太平洋を隔てたカナダ人とオンライン・ディスカッションを披露し、米国とカナダの比較論を展開した。現在では当たり前となった無料の遠隔コミュニケーション授業も、当時としては画期的だったと考える。また、関西大学国際部では外国人留学生と日本人留学生の合同クラス「Japanese Companies and Industries」を構築させていただき、アカデミックレベルが非常に高い学生とは、クリティカルシンキングを意識した「90分間全員が話し続ける講義」を

達成できた。さらに2019年からは四天王寺大学でも英語関係のクラスや「国際関係論」などを担当させていただいている。

私は20年以上にわたって会社経営を続け、現在はい他社の顧問を兼業している（どちらも留学事業）。



マスクとフェイスガードで  
大学の教壇に立つ

そのような中、教壇に立つとき、現実社会（ビジネス）とアカデミアの橋渡しが自分の使命ではないかと常に考えている。そして意識しているのは「未来へのまなざし」である。理論をもって過去の事象を分析し、現在を理解し、自分の頭で未来を推論する大切さを学生に伝えることである。国を超え、文化を超えれば両義性のある課題は枚挙にいとまがなく、選択意志（合理的な判断）や本質意志（自然な感情）など多くの物差しを駆使して、「これから私たちがどこに向かおうとしているか」を常に測っていくことが教育の一つの意義だと考え、学習していることと自分たちの社会をリンクさせる意識を学生には常に持ってもらっている。

もう一つは、激流にさらされている現代社会の認識である。第4次産業革命といわれる「情報が石油に取って代わろうとしている人新生（ひとしんせい）」を迎え、人間の価値観は大きく変わろうとしている。脱炭素の向こう側、つまりタイムリミットのある地球を俯瞰できれば、かつての「シェア拡大」や「経済成長」が必ずしも成功メソッドではないと疑問を持つことができるかもしれない。約18万年前、新たな食糧を求めてアフリカを離れたともいわれる人類は、その欲望の坂を上り切った転換点にあり今まさに「新たなグレート・ジャーニー」をスタートさせる時ではないか。授業でこのような疑問を学生に投げかければ、驚くほど興味深い答えが学生から返ってくる。かつてのような勢いがなく「安定志向」と揶揄される「ジェネレーションZ（1990年後半から2000年代終盤までに生まれた世代）」も実はそれぞれに自己実現の種を持ち、水や肥料を適量あげさえすれば、輝く花を咲かせる可能性を秘めているのだ。これからの社会の主役になる学生たちにとって、ABICの活動は正に教育的に豊かな土壌を提供する役目を担っていると確信する。ABICの社会貢献活動に参加させていただき心から感謝している。



講義風景



## 教育

## 高校生国際交流の集い2021

橘 ひろし (関西デスクコーディネーター、元三井物産)

2007年以来、今回で15回目となる「高校生国際交流の集い2021」は、新型コロナウイルス感染症が広がる中、交流のパートナーである外国からの留学生の不在に加え、宿泊を伴う対面での行事を実施できず、2020年同様、onlineでの開催を余儀なくされた。2020年の経験を踏まえ、関西学院大学の学生組織KGIH (Kwansei Gakuin Global Inspiration with High school) メンバーが、参加高等学校の募集、高等学校側の担当教諭との事前協議などの準備作業を行い、高等学校側においては、参加希望生徒の募集、大学側との希望者数の調整などがスケジュールに沿って行われた。

今回は共通スローガンを「Distance But Not Distant ~離れていても心はひとつ~」とし、ディスカッションテーマをSDGsゴール4「Quality Education (質の高い教育をみんなに)」とした。このテーマに基づき、参加者の事前学習支援がKGIHメンバーの協力で行われた。

行事当日の8月4日および5日の2日間はonline meeting システムZoomにより参加高校生と関西学院大学が結ばれた。2021年は、大阪府立箕面高等学校、兵庫県立宝塚西高等学校、兵庫県立長田高等学校、兵庫県立兵庫高等学校、神戸市立葺合高等学校、関西学院高等部、関西学院千里国際高等部、帝塚山学院高等学校の計8校から28人の高校生が参加した。関西学院大学7学部から留学生を含む31人のKGIHメンバーが行事の推進役となった。



参加者全員で

全編英語が使用される本プログラム初日は、関西学院大学副学長・研究推進社会連携機構長の長峯教授による開会あいさつ、KGIH副代表のあいさつに続き、KGIHメンバーの紹介、次いで関西学院大学OBでミュンヘン工科大学大学院生の入山竜之介氏の基調講演が行われた。午後からは、参加高校生はレクリエーションプログラムをonlineで経験し、グループ構成メンバーを互いに知り合い、その後、SDGsの目標に沿ったテーマにつき7グループに分かれてディスカッションに入った。

2日目も適宜インターバルを取りながらディスカッションが続けられた。ディスカッションの成果として、各グループがおのおののテーマに基づく課題を実現するためのビジネスプランを作成し、グループ全員で協力しながらプレゼンテーションを行った。参加高等学校の教諭、ABICの理事長、事務局長、コーディネーターらもZoomを通じてonlineで審査、採点、評価に参画した。

閉会式では、審査結果に基づき宮本ABIC理事長が上位3グループに表彰状を授与し、関西学院大学社会連携センター長・野村教授が参加者に修了証を授与した。今回もonline形式での開催となったが、関西学院大学研究推進社会連携機構の配慮により円滑な運営が行われた。

参加高校生にとっては思い出の多いイベントになったと思う。また、参加者全体のITリテラシーの水準から長年続いてきた本行事の変遷と進化が感じられた。2022年は対

面による実施の復活を望みたいが、不透明な部分も多い。しかし、2年続いたonline形式での経験がさらに生かされ、KGIHメンバーの本行事に対する絶えぬ熱意によって新たな視点が加わることも期待される。



宮本ABIC理事長による表彰状授与

## 留学生支援

## 日本語広場講師の楽しみ

てらさわ しんじ  
寺澤 眞治 (元 東芝)

2013年正月早朝、最後の赴任地ベトナムでの海外勤務を終えて成田空港に降り立った。

南国暮らしで汗腺が開いた身には厳しすぎる寒さに震えながらも、心中は一介の日本人を信頼してくれたお客さまとチームメンバーへの感謝の思いで熱かった。特に、駐在生活をスタートした時、サバイバル現地語と共に、宗教への対応、安全確保の方法などを教えてくれた方々がおられたからこそ、任地が好きになれたと感謝していた。

無事に帰国できた今は、自分が「海外への恩返し」をする時だと考えていたところ、2013年7月にABICからの案内を受けて活動会員として入会、2014年10月開講の日本語教師養成講座を受講した。講座では7人の同期生が集まり、厳しくも慈愛に満ちた先生の薫陶を受けたことは楽しい思い出である。講座修了後も年一度、同期生全員が集まり先生を囲んだ懇親会を続けている。近時はコロナ禍のため、懇親会を開催できないているが、ワクチン接種も進みつつある中で近いうちの再会が楽しみである。

2015年4月より東京国際交流館における「日本語広場」の初級クラスの講師を務める機会をいただいた。「日本語広場」は東京国際交流館に居住する留学生およびその家族が日本語を学習しつつ交流を深める場であり、ABICが東京国際交流館より委託を受けて運営している。「日本語広場」での日本語教育の特徴は、決められたテキストに沿ったクラスを行うのではなく、その日のクラスに参加した受講者の実力あるいは興味に応じて講義内容を切り替える方式にある。その日のクラスに誰が来るかわからないということは、事前準備に相当な時間がかかる一方、想定外の受講者が集まり、準備した内容が役に立たないことも往々にして起こる。そのようなときは講師から屈託ない笑顔を見せ、何を勉強したいか、何に困っているかを聞き出して受講者の抱えている日本語あるいは日本での生活への不安を減らすことに努めた。

自分の名前がカタカナで書けたこと、子供が通っている幼稚園の先生あるいはママ友が



コロナ禍のオンライン授業の様子

言っている言葉の意味が分かったこと、電車の車内放送で聞いた言葉の意味が分かったことなど、受講者がうれしそうな顔をして帰っていく姿をみるのは講師冥利につきます。「日本語広場」で日常生活に役立つ日本語を覚えてもらい、日本の生活を楽しみ、日本を好きになってほしいと思う。

2020年はコロナ禍で対面授業の開催が厳しくなる中で、経験と知見豊かな講師よりオンラインクラス開催の提案があり、コーディネーターの支援の下、オンラインクラスがスタートした。本稿を書いている時点（2021年9月）も緊急事態宣言が続いており、対面クラスは開催できず、オンラインクラスが継続している。オンラインクラスは対面クラスに比べて、受講者全員の反応をつかむことが難しいが、反面オンラインならではの良さも多いと感じている。例えば、クラスで使う教材を事前に送れば受講者が予習できること、受講者からの質問がどんどん出ること、興味を持ったこと（映画やアニメで見た「鬼滅の刃」等）をメールで送付させ講師がこれを添削して返すこと、東京オリンピックで通訳ボランティアを務めた受講者が写真を共有し経験談を話してくれたこと等はオンラインクラスで実現できたことである。また、オンラインクラスでは参加者がさまざまな場所から参加できるため、既に帰国した受講者が海を越えて参加するクラスも実現できた。

最近では日本企業で働くための日本語を勉強したいという受講者が増えていると思う。講師の力量が問われる日々ではあるが、さまざまな個性と価値観を持つ人々が暮らす社会を実現するお手伝いができることは楽しいことである。ABIC入会の動機であった「海外への恩返し」はまだまだ完了していない。一步一步、楽しんで、恩返しを続けていきたい。



緊急事態宣言前の対面授業の様子



## 留学生支援

## 日本伝統文化「華道」の魅力

兵庫国際交流会館 華道教室講師、ギャラリーール

ほそつば  
細坪ひろみ  
弘美

「8個スタンプが貯まると華道の資格を取得できます」  
単位カードを渡す時のいつものセリフである。8個のスタンプというのは、8単位すなわち華道教室を8回受講するということになる。

ABICの留学生支援活動の一環として、日本伝統文化である華道の修得機会を広げようと2015年6月に紹介をいただき、兵庫国際交流会館（通称HIH）にて毎月1回開催される華道教室の講師を担当している。2015年の開始当初、華道教室は日本文化を理解しやすい素地のあるアジア系、とりわけ中国からの学生が多かったが、最近では欧米諸国からの受講生が増えている。

冒頭の資格とは、華道の初心者が初めて得ることのできる初級クラスの資格のことである。その後段階的にレベルが上がり、受講を続けて単位を取得していくことによって、華道の教授者資格を得、指導者としての認定を受けることができる。2018年には准教授の資格を取得した中国からの学生がいる。日本文化に触れようと気軽に始めた参加者が、単位カードのスタンプを数え、さらに上のレベルの資格を目指すようになる。帰国後も華道を続けたいと願う学生に至っては、私が主宰するスクールで行っている『いけばなオンライン授業』を母国で視聴できないかと興味津々である。

また、2019-21年にはABICから推薦をいただき、桃山学院大学ビジネスデザイン学部の非常勤講師として「華道の心」を単独担当している。ビジネスデザイン学部は2019年4月にスタートした。創造力と高いコミュニケーション力を身に付け「アントレプレナー（起業家）の素養と実行力を持つ人を育てる」を教育目的とする。その「教養・文化科目」である「華道の心」では、日本文化の精神性

を理解し高度に洗練されたコミュニケーション力の習得を目指す。加えて、生け花を実践的に学び、立体的に空間を動かし創造していくことは思考にも広がり生まれ、新しいビジネスをデザインする

力につなげていく。HIHの留学生・桃山学院大学の学生・年齢・性別・話す言葉・文化の違いは多様であるが、華道に魅せられ、その世界観に引き込まれる。

「生け花は単に花をきれいに飾るだけでなく、自然と人間のつながりを大切にする日本文化の精神性を感じた（アルメニア）」「華道の作品はとても魅力的で、その所作も美しく、私もまねしていきたいと思う（米国）」「四季のある日本では季節の花を使った表現がいろいろあり、伝統的な芸術の魅力を毎回発見できてうれしい（中国）」「華道を学ぶ以前に比べ、心に余裕をもてるようになった。日常生活において心を落ち着かせ丁寧に行動することを意識できるようになった（日本）」このような声は指導者として大変励みになり、誇りに思う。

花を生けながら静かに自分を見つめ、心を整える。私の出番がないほど皆、真剣に取り組み集中している。出来上がった作品を一堂に飾り、それぞれの感想を口々に、お互いの花を鑑賞する時間が楽しい。その表情はいつも笑顔と自信にあふれている。この素晴らしい日本文化を伝えるさまざまな機会を与えてくださったABIC留学生支援活動および関西デスクのコーディネーターの方々ははじめ、関係者の皆さまに心より感謝を申し上げ、今後も日本伝統文化「華道」の魅力を世界へと広めたいと思う。



授業風景（左端が筆者）



真剣に生け花に取り組む受講生

## 留学生支援

## 東京国際交流館での活動

ABICでは、日本語広場での日本語教室、日本文化教室、春・秋のバザー、8月に開催の国際交流フェスティバルでの日本文化体験教室等、さらには居住者の育児健康相談、入園・入学、各種健診等さまざまな支援を行っている。

## 日本語広場

4月は対面授業4回、オンライン授業34回、5月からはオンライン授業のみの実施になった。対面授業は10月4日から再開したが、新型コロナウイルスの影響もあり再開後2週間は参加者が少なく、いろいろな工夫をして対面授業への参加を呼びかけた結果、徐々に増えてきているが、オンライン授業なら参加できるとする学生が少なからずいるので、今後の課題として捉えている。

オンライン授業は初級1・2、中級そして上級クラスを開き、総レッスン数は250、延べ参加者数は720人。オンライン授業はほとんどの講師にとって初めての経験であり、授業の進め方に不安を抱きながらのスタートだったが、デジタル世代の学生が積極的に参加してくれ、不慣れな講師陣に適切なアドバイスをしてくれた。その結果、講師陣の懸命な努力と相まって日を過ごすごとに授業の質を高めることができた。

当初、オンライン授業は対面授業の単なる代替策に過ぎないのではとの考え方が支配的だったようだが、時間を重ねていくうちに、デジタル時代ではオンライン授業は対面授業と同様に有用・有益であると日本語広場の多くの講師が認識するに至った。

その理由は第1に、育児、家事雑用に忙殺されている居室から、大学の研究室から等、好きな場所からの参加が可能になる。第2に、対面授業が苦手な人でも気楽に参加で

きる。第3に、オンライン授業では出席者が周囲を気にせず発言するようになり、授業が活性化する。気楽な気持ちで授業に出席できることは、受講者にとっては大いに意味がある。彼らが日本語を学ぶのは、技能労働者とは異なり、必要性があるからではなく個々人の任意の意思からであり、参加しやすい環境を育むことはとても大切な要素である。第4に、東京国際交流館（TIEC）には入居制限があり学生の入替わりが頻繁にあるが、退館して日本国内に滞在している人、帰国した人に対しても日本語の授業が可能になる。国際社会貢献センター<sup>ひょうほう</sup>を標榜するABICの考え方にまさしく合致するものであり、TIECの学生・家族を中心とした日本語教育の輪が広がり、ひいてはABICの活動範囲の拡大につながる有用かつ貴重な機会を得ることになる。

## 日本文化教室

茶道、華道、書道、将棋、囲碁、空手の教室を原則おのおの月1回開催。4月から7月までは何とか教室を開いたが、新型コロナウイルス感染拡大により8月、9月は全面的に活動を休止し、10月から茶道、書道、将棋、空手教室を再開、11月には囲碁、華道も再開予定。4教室合計で15人が参加。ほとんど未経験者だったが、参加者は大いに興味を持ったようで、今後も参加者を増やすことに努める。

なお、留学生支援グループの活動としては、上記以外に「日本語講師養成講座」や「会員企業や大学への日本語講師派遣」も行っており、ご関心がありましたら、ABIC事務局へご連絡下さい。

（留学生支援担当コーディネーター）



書道教室



将棋教室



空手教室



## 留学生支援

## 兵庫国際交流会館での活動

## 日本語広場

2015年5月から開始した兵庫国際交流会館（HIH）でのABIC日本語広場は順調に推移し、2018年度の受講者延べ数は2,126人と過去最高を記録した。しかし、2020年は、新型コロナウイルス感染拡大により2月下旬より活動の中断を余儀なくされた。5月からはオンライン授業を開始し、6月より対面授業を再開した。新規の入館予定者が入国できず、この結果、2020年度は1,067人と大幅に減少した。

2021年度は再び新型コロナウイルス感染が拡大し、4月から6月19日までオンライン授業、6月21日から8月7日まで対面授業に、8月20日から9月末まで再びオンライン授業となった。これは、政府の緊急事態宣言の発出に伴いリモートでの授業をHIHより求められたもの。対面授業の再開には、2020年度にも行った新型コロナウイルス対策につき、①3密の回避、②マスクの着用、③教室は換気に留意し窓とドアを開放、④手洗い消毒の励行、等に関西デスクから受講者に通知し実行している。HIHのコロナ対策も、2020年度同様、感染リスクを徹底的に排除し、講師、受講生にとり不安を感じさせないものになっている。

2021年6月には、アフリカからの学生、多くはKIC（神戸情報大学院大学）院生の7人が初級クラスに参加している。彼らは来日前にオンラインで大学院の授業を受講しており、旧知の仲だった。日本語広場の授業は午後6時からで、HIHのOB・OGも参加できる。近年留学生の日本での就職が増加しており、彼らは退館後もABICが日本語を話す機会を提供してくれることに感謝している。近隣に居住している者も多いが、中には、北海道、栃木、広島、さらに海外在住者もいてリモートで参加している。上級クラスになると、ほとんどが日本語能力検定N1、N2保持者で、講義内容はかなり高度なものもあり、講師の中には事前に資料を配布し研究をさせている。例えば、TED Talksの配信講演からサイモン・シネックの「WHYから始めよ」<sup>(注)</sup>の講義内容を扱っており、受講生にも好評だ。10月から

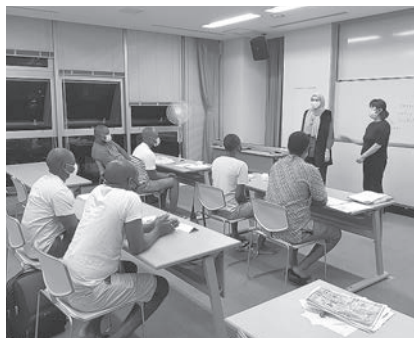
は本来の対面授業に戻っているが、講師にとり対面授業の方が、受講生の反応をじかに感じられること、また初級クラスの受講生からも対面授業は好評である。

## 日本文化教室

日本文化教室活動は、オンラインでの授業が困難なことから断続的に発出された緊急事態宣言に従い、今期は、5月、8月、9月の3ヵ月は休講とした。華道は、熱心な受講生が多く、広い研修室での開催は受講者・講師からは十分なソーシャルディスタンスが取れて大変好評だ。従来は中国、アジア系の受講者が多かったが、最近は、米国、アルメニア、セルビア、イラン、モロッコ、ウガンダ、モーリタニア等の学生が参加している。幸い講師は、米国留学の経験から流ちょうな英語が話せコミュニケーションには全く問題ない。作品について各自説明し合うなど、欧州のフラワーアレンジメントとは異なる生け花を探究している。空手は、アフリカのマリ出身でHIHのOBが毎回参加し、講師の指揮下、積極的に後輩の指導に当たっている。書道は、6月に設立当初からの講師の交代があった。熱心なタイ人に加え、中国からの学生が複数参加している。中国では書道は必須項目ではないが、やはり漢字の発祥の地でもありのみ込みが早い。

ところで、ABICのもう一つの支援活動である新入生歓迎バザーは、コロナ禍で本年度も中止せざるを得ないことになり大変残念である。コロナウイルス感染が早期に収束し、留学生が問題なく来日でき通常の生活に戻れる日を切望する。  
(関西デスクコーディネーター)

(注) TED (Technology Entertainment Design) はニューヨークに本部を置き、さまざまな分野の専門家による講演会を開催しているNPO団体で、インターネットで動画の無料配信 (TED Talks) をしている。サイモン・シネックの「WHYから始めよ」は4,000万回以上再生され書籍もベストセラー。



日本語広場



華道教室



空手教室



## 会員の種類

| 種類    | 内容                                                | 年会費                 |
|-------|---------------------------------------------------|---------------------|
| 正 会 員 | センターの趣旨に賛同し、活動を推進し、会費を納める個人、法人および団体。（理事会の承認を得て入会） | 法人および団体 1 口 50,000円 |
|       |                                                   | 個人 1 口 10,000円      |
| 賛助会員  | センターの趣旨に賛同し、会費を納める活動会員、ならびに個人、法人および団体。            | 法人および団体 1 口 10,000円 |
|       |                                                   | 個人 1 口 5,000円       |
| 活動会員  | センターの趣旨に賛同し、事業に参加しようとする個人。                        | 不要 — —              |

(2021年10月末現在)

### 正 会 員

#### 法人・団体（17社、1団体）〈社名五十音順〉

〈10口〉 伊藤忠商事(株) 住友商事(株) 双日(株) 豊田通商(株) 丸紅(株) 三井物産(株) 三菱商事(株) (一社)日本貿易会

〈4口〉 (株)日立ハイテク 〈2口〉 稲畑産業(株) 岩谷産業(株) 長瀬産業(株) 日鉄物産(株) 阪和興業(株)

〈1口〉 兼松(株) 興和(株) JFE商事(株) 蝶理(株)

#### 個人（13名）〈敬称略・氏名五十音順〉

〈3口〉 檜田松瑩 勝俣宣夫 中村邦晴

〈1口〉 池上久雄 市村泰男 岩城宏斗司 岡 素之 小林栄三 齊藤秀久 佐々木幹夫

寺島実郎 宮原賢次 吉田靖男

### 賛 助 会 員

#### 法人・団体（3社）〈社名五十音順〉

〈1口〉 (有)イーコマース研究所 (株)エックス・エヌ 三谷ビジネスパートナーズ(株)

#### 個人（230名）〈敬称略・氏名五十音順〉

下記は2021年6月以降にお申し込みいただいた方です。ご協力に深謝申し上げます。

〈1口〉 生田章一 伊東良平 九門康之 友永隆浩 中高英明 丸子博之 吉村和夫

### 活 動 会 員 2,975名

## 賛助会員入会のお願い

ABICの活動にご賛同いただき、資金的な援助をしていただける活動会員およびその他の個人の方、  
ならびに法人および団体の皆さまのご入会をお願い申し上げます。

#### 会員入会のお問い合わせ・連絡先

#### 特定非営利活動法人 国際社会貢献センター（ABIC）

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-1 霞が関コモンゲート西館20階

TEL：03-6268-8604 FAX：03-6268-8652 E-mail：mail@abic.or.jp